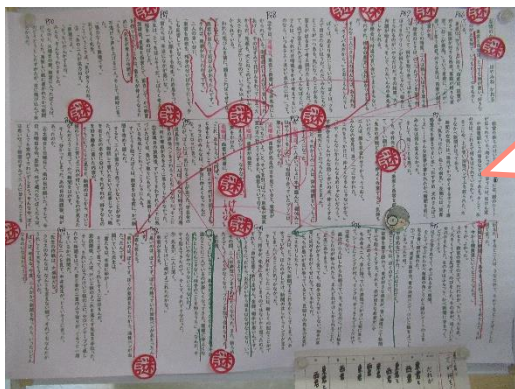


ミステリー教材に挑戦！



11月29日、4年2組であった国語科の研究授業は、初の「ミステリー教材」ということで、おもしろくもあり、(指導することが)難しくもあるものでした。

「物語に隠された秘密を解く」「作者からの挑戦状」「謎カード」といった、子どもたちに「謎を解きたい!」と思わせるようなワクワク感がちりばめられた単元デザインがなされており、最終段落の本時まで子どもたちが意欲的に学習に取り組んできたことがうかがえました。



教材の本文を一覧にし、子どもたちが「謎カード」に書いた謎も一緒に掲示。
本単元の指導項目である「複数の場面の叙述を結び付けて想像する」ことを可視化して授業を進められていました。
前回の甲先生の授業で学んだ「指導要領に立ち返る」ことを実践されていて、すばらしいな、と思いました!

今回の授業から考えることとして、「ゆさぶり発問」をどのタイミングで、どのような言葉(発問)ですれば効果的か...というところがあったように思います。こちらが予定したタイミングより早く子どもから「ゆさぶりの言葉」が出たとき、予想以上のつぶやきがでたとき...そのとき、どのように言葉を拾ったり広げたり、他の子どもたちにつなげたりするか、つまり「教師のコーディネート力」が大切になってきます。しかし、そこが一番難しいところでもありますよね。

日々の授業の中で、私たちがそれを意識して取り組むだけでも、きっと違ってくると思います!

2学期の授業実践記録作成お世話になっています。

今週中にフォルダに入れていただけるとありがたいです! よろしくお願ひします!